

きこり

通信 2024年 冬春合併号

どんな年にも桜は咲く、喜ばしい春。2号ぶんまとめた合併号をお届けします。試行錯誤続く中、どうぞ宜しくお願い致します。

- 主な内容
- 間伐材出荷量の推移と今後の展望
 - ワンポイントチェック 斜め切り・下切について

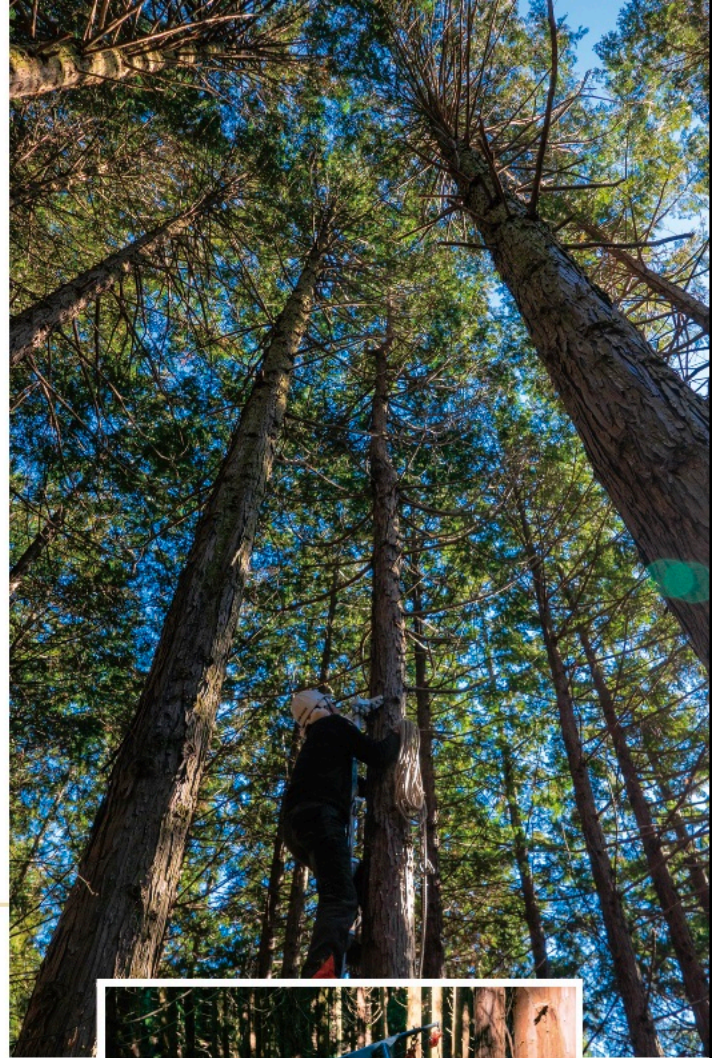
右は2月に八川で開催した実践研修の一コマ
2024年冬春合併号(第14号) 令和6年3月28日発行

間伐材出荷量の推移と今後の展望

令和5年度(2023年度)のきこりプロジェクト、間伐材出荷の総量は215トンとなりました。従来、500トンとしてきた年間設定は今年350トン。目標には85トンほど及びませんでした。

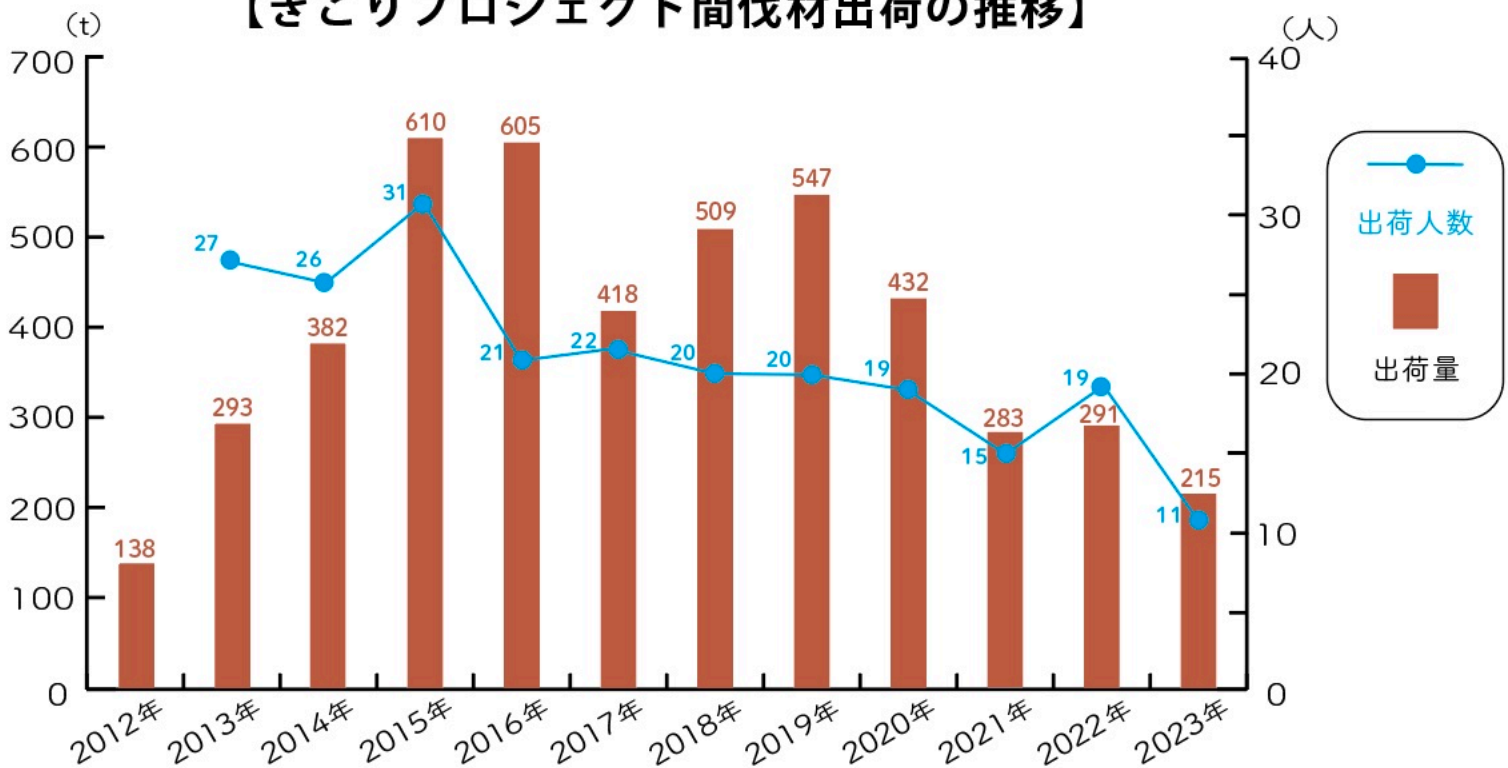
出荷は晩秋から冬期に集中しますが、今年度は積雪こそ少なかったものの、雨天が多かったことが影響しました。中長期的には、プロジェクト開始から12年がたち、会員の高齢化が大きく進んだことも大きな要因です。初年度17名だった会員数は今年で78名と、順調に増えています。一方、その中で実際に出荷した人の数は、

2015年の31人をピークに今年は11人にまで低下しました。そんな中でも毎年同じように出荷を続けておられる方、新しく始められた方、来年度は出せるという方と、人それぞれです。(裏へ続く)



伐ることもですが運び出すことも、頭の使い方、機械や道具の使い方が重要です。

【きこりプロジェクト間伐材出荷の推移】



プロジェクトでは、一人ひとりのための支援、従来からの仕組みは変わらず進めてまいります。その上で、会員・出荷の裾野をひろげていくことを長期的視野にたって、進めようとしています。

とりわけ新しく始められる方、若い世代に引き継ぎたい方、間伐に限らずひろく山を活かしていきたい方などなど、これまで行き届かなかったところに手を入れることも手掛けます。

次年度の出荷目標は300トンですが、目安であり重視しない方針

です。またボランティア的な関わり、子供の遊び場・自然体験の場・林業教育の場など、多種多様な山

の利用へ向けて試験的な試みもしていきます。この春からの一年、またよろしく願いいたします。

チェーンソー研修から次へ 向かう流れをつくるために

チェーンソー研修は本年度も基礎・伐木の2コースで春秋2回開催し、冬には実践研修として伐木・集材2コースを開催しました。

ここ数年来、若い世代や女性の参加者が増え、奥出雲地域の山林

管理を担っていく「きこり」の裾野拡大と世代間継承へ向けて、よい流れができつつあります。一方で、チェーンソーには、さわるのもはじめてというゼロベースの参加者も増え、研修を数回受けたく

間伐材出荷の流れ

研修と支援



らいでは、実践の手前にすらたどり着けないという事態もあらわになってきました。

ここでいう実践は間伐に限らず、かげ切り(雑木が主でもあり、スギヒノキより難易度が相当高いですが)、庭

木の整理なども含む、チェーンソーを使って実際に施業することです。木を切り倒せたとしても、動かせずその場に放置したままということもあります。

上の図をご覧ください。きこりプロジェクトは多くのメニューを持ちながら、実はチェーンソー研修の「人気」に対して、他は「ぱっとしない」状態です。

初心者にとっては山林踏査・集材のことはイメージ

すら持てないでしょうから、参加しづらいのも事実。ただ、それらを踏まえると、基礎研修そのものの効果もぐんとあがるはずです。

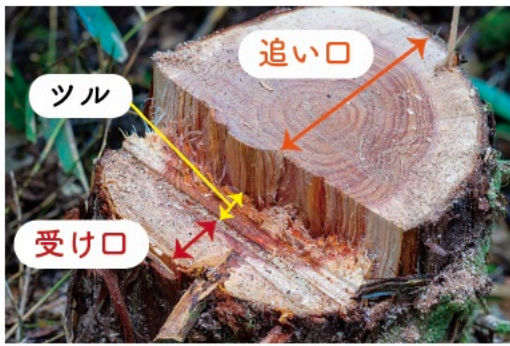
プロジェクトでは、図の下の方にも小さく記したように全体を体験体得してもらうことと、必要性のPRを進めたいと考えています。またそれは経験者にもプラスになるはず。

メニューが有機的につながるように、それが見えるように、というのが目標です。



◀間伐のための作業道づくりは、道も山も崩れない、長く山を管理するためのもの。講師の指導のもと、研修方式で進めることもできます。今年も募集は夏頃から受付開始の予定。

受け口をつくる目的 = 伐倒方向の精度を高める + 材の裂けを防ぐ



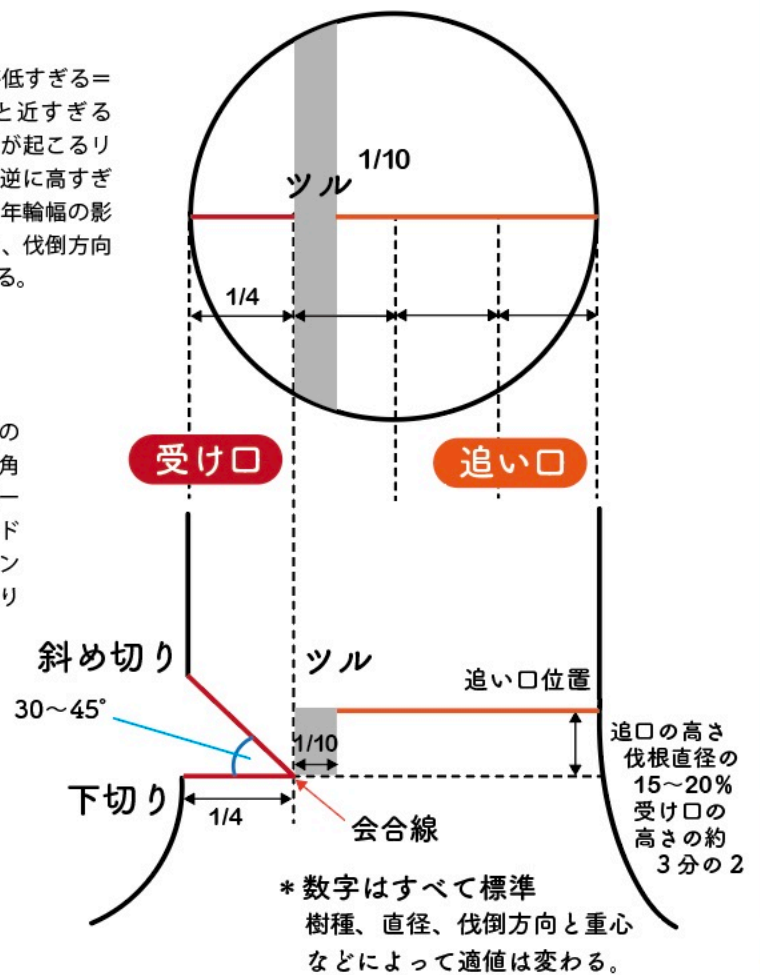
① 追い口の高さが低すぎる＝下切りの位置と近すぎると、裂けあがりが起こるリスクが高まる。逆に高すぎると、偏心など年輪幅の影響を受けやすく、伐倒方向を定めにくくなる。



② 受け口の斜め切り開始の位置で、伐倒方向に直角になるようにガイドバーを幹にあてる。前ハンドルのグリップ部分をコントロールして、斜め切りの角度にあわせる。



③ ガイドバー先端を受け口会合線に直角に当てて、伐倒ラインを見る。目印とした目標物にあってはいるか。ズレを確かめ、修正する。



！ 受け口の基本を踏まえての、斜め切り・下切りについて

ワンポイント
チェック

最初に、下にあげた本を読んでもらうのが一番です。と、お断りしたうえで、簡単にふれます。

① 受け口の斜め切りと下切り、どちらが先か？

研修の参加者からこの①の質問がありました。答えとしては「どちらでもよい」けど「一長一短あるので、使い分ける」です。上の図もあわせてご覧ください。

② そもそも1回で決まらない
1回ずつの斜め切りと下切りで

所定の受け口ができることはまずありません。相当なベテランでもそう。どちらを先にした方がよい受け口となるか、です。

③ 斜め切りを先にするメリット

- i. 伐倒方向を決めやすい。
- ii. 下切りとの会合線を確認しやすく、切り終わりを目視しやすい。つまり、あわせやすい。

④ 下切りを先にするメリット

- i. 水平を確定しやすい。水平切りが苦手な人、水平を決めにくい場所などで有効。
- ii. 伐採点を低くしやすい。先に決まるわけなので。

⑤ 斜め切り先行の例をひとつ

- i. ガイドバーを伐倒方向直角にあわせ、幹にあてる。(上写真②)
- ii. チェーンソーを30°~45°に傾け切り始める。ある程度切り込ん

▼受け口の見本としてはよくない例です。どこが悪いかわかりますか？ 会合線が合っていないこと、下切り線が若干水平でないことです。



だらストップ。この時、手元側が深く先端側が浅い状態。
iii. ガイドバーをきっちり水平に構え、斜め切りの深い側のやや下を目処として、下切りを開始。
iv. 斜め切りでできた切れ目（鋸道）をのぞきながら、その延長上に下切線が来るところまで切る。
v. 斜め切りを切り足して、下切りの線と切り結ぶ。
vi. 伐倒方向と合っているかを確認する。(上写真③)
vii. 修正をかけながら、会合線をきれいに仕上げる。
——といったところです。



◀ 今回の記事はこの本をもとに書いています。ジット・ネットワークサービスの石垣氏と米津氏の著書『伐木造材とチェーンソーワーク』は目立って伐倒とチェーンソーワークと通理を理論的に網羅し、石垣氏は奥出雲町での研修講師にいらしたこともあります。

写真で振り返る今年度あれこれ (2024・令和5年度)

●活動を写真で振り返ってみました。大事なところは、写真に撮れない、目に見えないものではありますが、忙しい合間の一時にでも、眺めてもらえれば幸いです。



◀2月の実践研修の集材班。今年度敷設した作業道で。前を走る林内作業車の後ろからついていきます。

▶チェーンソー研修、基礎コースでの目立て実践。最初の難関でもあります。できるようになると楽しさも増します。



▲やすりの持ち方の基本。忘れないように、もう一度よくみて、間違っていたら修正しておきましょう。



▼子ども版きこりプロジェクトで仁多中学校1年生がチャレンジした林業体験。伐倒、枝払い、玉切り、集材、積込みとこなしました。



▼8月27日の山林講習会。ワークショップを中心とした新しい試みでした。



▼チェーンソー研修での玉切り。バーを挟まない切り方は？



▼7月と11月、年2回のチェーンソー研修。夏も秋も天候には恵まれましたが、暑い一日でした。☑



お知らせとお願い

●「奥出雲きこり友の会」ウェブサイトも少しずつ充実させていきます。次年度も引続き、よろしくお願いいたします。

□

●奥出雲町オロチの深山
きこりプロジェクト事務局
〒699-1431 上三所 66-1
☎&FAX:54-1635
メール kikori@s-orocho.org

